

②ウキ釣りスタイル

カケアガリなどの地形変化につくチヌの他、沖めにある潮流の変化が狙い目となる青物・グレ・マダイなどを狙うには遠投可能なウキ釣りスタイルが有効です。ここでは大物を想定したパターンを紹介しますが、全体的にライトな仕様にすればメバルやアジなども狙えます。主なターゲット…青物・マダイ・チヌ・グレなど

メバルやアジを狙うなら…

右記のシステムを以下のようにライトな仕様に考えるとメバルやアジが狙えます。道糸3号、サビキカゴや天秤つきドンブリカゴ10号前後、ハリス2号、グレバリ5～6号（刺し餌の刺しアミを刺せるサイズ）。ハリス以下に遠投用のサビキ仕掛けをセットすればアジやサバも期待できます。

道糸：ナイロン4～5号

トラブルが少なく扱いやすいナイロンが基本です。号数はターゲットのサイズや釣り場の地形に応じて4～5号から選びましょう。青物が見せる疾走に備えて最低でも150㍔はリールに巻いておきたいものです。

竿…遠投用の磯竿4～5号5級クラス
一般的な磯竿でも釣りは可能ですが、飛距離というアドバンテージを得られる大型の遠投ガイドを備えたタイプがベターです。

シモリ玉

ウキがウキ止めを通過しないようにするアイテムです。使用する道糸の太さに応じてサイズを選びましょう。このシモリ玉の穴はテーパースタイル（先細り）になっており、細い方から道糸を通します。棒ウキを使う際、ウキの足にあるカンにシモリベット（シモリ玉つきのスナップサルカン）を使うときは不要です。

ウキ止めゴム

仕掛け（ハリス部）とウキがからまないようにするためのストッパーとしてサルカン（天秤）からウキの全長＋約5㍎離れたところにヨウジで止めたゴム管をセットします。

カゴ釣り用天秤

ブツ込みスタイルと同様にサルカンにカゴをセットするパターンでもいいですが、20㍎前後の天秤を用いることで仕掛けと道糸のカラムを抑えることができます。天秤つきのカゴを用いるときは不要です。

オモリつきカゴ8～12号

カゴの下部にオモリを備えたステンレス製のフタつきタイプや遠投用タイプなどのカゴ釣り用を選べば間違いありません（遠投タイプのほとんどは、出したい撒き餌の量に応じて放出口の大きさを手動で調整する必要があります）。なお、和歌山県の煙樹ヶ浜や七里御浜では100㍔近い飛距離を求めることから、あらかじめ天秤が備わったトラブルの少ない遠投カゴを用いるベテランもたくさんいます。

リール：スピニングリール4000番

ナイロン4～5号が150㍔ほど巻けるサイズを用意しましょう。

ウキ止め

位置をかえることでウキ下の長さ（タナ）を調整することができます。種類は糸とゴムの2タイプがありますが、太い道糸を使うカゴ釣りでは糸タイプを選ぶのがベストです。

ウキ止め糸の結び方

ウキ止め糸

道糸

①U字にしたウキ止め糸に道糸を重ねる。ウキ止め糸の両端を道糸の上から通し、できた輪に通す

②ウキ止め糸を重ね、道糸を巻き込むようにしてできた輪に端糸を通す（ハーフヒッチ）

③ハーフヒッチを3～4回ほど繰り返して締め込み、余分な端糸をカット

遠投用のウキ10～15号

撒き餌の有無によって浮き方が大きくかわらないように自立タイプではない高浮力タイプを用いるのが一般的です。アタリは明確にできることが多いため感度よりも潮乗りのよさ、遠投性や視認性を重視して選択しましょう。視認性を求めるなら棒ウキ、遠投性や潮乗りのよさを求めるなら中通しの発泡ウキという基準で選べばよいでしょう。カラーは視認性のよい蛍光のイエローやオレンジが一般的ですが、逆光時は黒いカラーが見やすいとされています。

ハリス：フロロ3～5号2㍎

強度面はもちろん、撒き餌との同調を考えると潮なじみのよいフロロが最適です。グレ・マダイ・チヌを狙うなら3号、青物を狙うなら5号が標準ですが、釣り場回りにシモリやテトラなどの障害物があるときは1～2ランク上の号数をセットしましょう。潮に乗せて仕掛けを流すウキ釣りでは、ハリスが短いと食いがわるくなる傾向があるため2㍎程度の長さを取りましょう。

ハリ：伊勢尼8～10号、グレバリ7～8号、ブリ・ヒラマサバリ10～12号

強度を備えた万能タイプの伊勢尼の他、口の小さなグレを狙うならグレバリ、パワーのある引きを見せる青物を狙うならブリ・ヒラマサバリを用意しましょう。